

医療被ばくに関する説明書

□検査の必要性(正当化)

放射線検査は患者さんの病気の発見のためには有用な検査方法の一つです。放射線を用いるため、少なからず放射線による被ばくを受けます。従って、検査の必要性が被ばくのリスクを上回ると考えられる場合のみ行います。

□線量の最適化

当院では、法令や関連学会等のガイドラインをもとに最適な条件で検査を実施し、放射線による被ばくを必要最小限とするように実践しています。

□被ばくによるリスク

一般的に100mSv(ミリシーベルト)以下の放射線被ばくによる人体への影響はほとんどないものと考えられています。発がんのリスクは食事やストレスなどの放射線以外の因子によるものと区別できない程度に小さいとされています。

□自然放射線および X 線検査の被ばく線量目安



検査部位	一般的な被ばく線量(mSv)	当院での被ばく線量(mSv)
胸部 X 線撮影	0.06	0.04
胃透視検査	4	1
歯科 X 線撮影	0.002～0.01	0.002～0.01
頭部 CT 検査	2.8	2
胸部 CT 検査	7.7	3
胸腹骨盤部 CT 検査	19.5	6
冠動脈 CT 検査	19	10
PET CT 検査	9	4.5

※Sv(シーベルト)とは生体の被ばくによる生物学的影響の大きさを表す単位

環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(令和元年度版)」第2章放射線による被ばく等より引用

□ご不明な点について

被ばく線量や影響について、詳しい説明をご要望の場合はいつでもお申し出下さい。